

# 出 会 い の 森

玉津小学校便り No. 1

(令和2年4月8日発行)

玉津小学校

検 索

※ホームページもぜひご覧ください。

子どもたちの笑顔があふれる学校に！

校長 坂元 裕則



本校に赴任させていただき、2回目の春を迎えることとなりました。保護者や地域の皆様の温かいご支援のもと、素直で明るく元気な子どもたちとともに、充実した日々を過ごさせていただいております。本当にありがとうございます。

今年度は、新生児51名、転入生4名を迎え全校児童243名でスタートいたしました。今年度も「たすけあい まなびあい つくりあげる玉津の子」を合言葉に、助け合って「うれしい」時の笑顔や、知恵を出し合って「わかった、できた」時の笑顔、みんなで力を合わせて「やりとげた」時の笑顔など、そんな(た)(ま)(つ)の笑顔があふれる学校づくりを更に推進していきたいと考えています。職員が一丸となって取り組んでいきたいと思っておりますので、昨年度同様、保護者や地域の皆様の温かいご支援・ご協力をお願いいたします。

学校教育目標 (めざす子ども像)

(た)すけあい (ま)なびあい (つ)くりあげる玉津の子

めざす学校像

子どもたちの笑顔があふれる学校

## ①心地のよい学級集団づくり

- ・爽やかなあいさつ
- ・学習規律の定着
- ・多様な意見が認め合える集団づくり

## ②目に美しい環境づくり

- ・清掃の徹底
- ・整理、整頓の徹底  
(落とし物、机・いすの整頓)
- ・後片付けの徹底

## ③耳に美しい環境づくり

- ・時と場に応じた丁寧な言葉づかい  
(友だち言葉と丁寧言葉の使い分け)
- ・心のこもった優しい言葉づかい  
(呼び捨て禁止)

人を育てる「基礎づくり」は、「基本的な生活習慣」「人とのかかわり」「気持ちのコントロール」を身につけさせることが大切であると考えています。そこで、本校では「あいさつ」「そうじ」「丁寧な言葉づかい」の3点について、昨年度より引き続き力を入れて取り組み、「子どもたちの笑顔があふれる学校づくり」を目指します。あせらず、急がず、お子様の成長を温かく見守っていきましょう。また、「自分でできた経験」を増やすことで、お子様の自信につなげていきましょう。

## ■組織紹介

8名の新しい先生方をお迎えし、気分も新たに令和2年度のスタートを切ることができました。今年度は、下記の体制で取り組みます。保護者や地域の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

校長	坂元 裕則	養護教諭	東郷 久美
教頭	長田 光広	ことばA	松浦 佳代
教務	入江 一智	ことばB	安達 早恵子
わかくさA	大西 一子	主任事務主査	岩井 貴代美
わかくさB	大崎 透	特別支援	原田 敦子
1 A	石原 徳雄	コーディネーター	大崎 透
1 B	久住呂 優衣	栄養職員	澤田 妙子
2 A	原田 敦子	少人数指導	山本 喜久子
2 B	村田 沙織	いきいき支援員	野口 直子
3 A	寺井 真理子	用務事務補助員	草川 万知子
3 B	秋山 優人	英語専科教員	佐竹 桂
4 A	川村 中	A L T	フェイス ライトアウト
4 B	山本 絢香		
5 A	澤井 悠哉		
6 A	大木本 保久		

## ■朝の活動について

	月	火	水	木	金
8:15～	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会
8:30～	① できるんじゃー Sports		② できるんじゃー English		④ 読書 タイム
8:45～	③スキルタイム				

### ①できるんじゃーSports (スポーツ)

運動機会の確保ならびに体力向上を目的に、年間を通じて毎週月・火曜日に10分間運動に取り組みます。

### ②できるんじゃーEnglish (イングリッシュ)

新学習指導要領に基づき、外国語科、外国語活動において、対話につながる言語活動としての「Small Talk」に取り組みます。

### ③スキルタイム

基礎学力の向上を図るため、漢字や計算の繰り返し学習に取り組みます。

### ④読書タイム

読書の習慣化を図るため、今年度も金曜日に30分間の「読書タイム」を設定し、土日の読書活動に繋がりたいと考えています。



## 教室配置図

4A	4B	ワーク スペース	3A	3B	WC	階 段	児童会室	郷土資料室
3階							コンピュータ室	
5A	6A	ワーク スペース	1A	1B	WC	階 段	相談室	準備室
2階							図書室	調理室
ことばA	ことばB	ワーク スペース	2A	2B	WC	階 段	昇降口	給食室
1階							職員室	わかくさA
							保健室	わかくさB



### ■ 1学期の主な行事予定

<b>4月</b> 30日(木) 家庭訪問 <b>5月</b> 1日(金) 家庭訪問 7日(木) 家庭訪問 8日(金) 家庭訪問 避難訓練 15日(金) リレー記録会 21日(木) 玉津大好き大発見	<b>6月</b> 13日(土) 土曜参観 (5時間授業) 15日(月) 振替休業日 <b>7月</b> 15日(水) 学習参観・学級懇談会 16日(木) 給食終了
--	---



### ■ 欠席の連絡等について

- ・ 欠席する時や集団登校できない場合は、当日の集合時刻までに班長または同じ学年の友だち等に「欠席届カード」を渡して必ず連絡をお願いします。
- ・ 連絡がなく欠席の場合は、学校から確認の連絡をさせていただきます。
- ・ 集合時刻に間に合わず遅れて登校する場合には、安全確保のため子どもだけで登校させるのではなく、必ず保護者の方の付き添いをお願いします。

## 差別をなくす取り組みから生まれた教科書無償化

保護者の皆さんは、かつて教科書が有料だったことを知っていらっしゃるでしょうか。

憲法第 26 条には「義務教育は、これを無償とする」とありますが、義務教育の小中学校ではじめから教科書が無償だったわけではありません。現在では、当たり前のように無償で配られる新しい教科書ですが、その背景には、教科書無償化のために運動を起こし、力を尽くした方々の歴史があるのです。

その運動の起こりは、1961 年（昭和 36）、高知市長浜。高知市長浜は土佐湾にのぞむ半農半漁の地域でした。仕事らしい仕事に恵まれず、母親たちの多くは失業対策事業に出て働いていました。当時の＜失対＞は 1 日働いて約 300 円でした。小学校約 700 円、中学校約 1,200 円の教科書代は、かなりの額でした。当時は子どもの数が多かったこともあり、経済的に苦しい家庭では大きな負担となり、教科書を買ってもらえない子どもたちもいました。教科書代が払えないために学校を休む子どももおり、教科書の無償化はすべての人々の願いでした。

昭和 30 年代半ば、母親たちは差別をなくしたいという思いから小中学校の教員と学習会を開いていました。そして、母親たちは「教科書をタダにする会」を結成しました。この会は、集会を開き署名運動を展開するとともに、多くの団体にも働きかけ、その支持を得ました。高知市議会も、小中学校の教科書が無償にするように内閣総理大臣や文部大臣あてに意見書を提出しました。

この運動は、多くの人たちの熱い思いがこもっていました。そのため国会でも大きな問題であるとして取り上げられ、文部省（現文部科学省）は 1963 年（昭和 38）12 月に「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」を成立させ、ついに教科書無償化が全国的に実現したのでした。

現在、当たり前のように手にしている一冊一冊の教科書、その歴史には多くの人の熱い思いや取り組みがあったことを知ると、改めてその重みを感じられます。「教科書を大切に使うこと。教科書を使って一生懸命勉強すること。」今一度このことをご家庭でも考えてみてください。

